

1. 身体に適合する衣服寸法の基準をみいだすことを目的として、身体計測を行い、性別、年令別に体型の特徴を観察した。本報ではそれらの結果に基づき体型を分類し、被服構成の立場から被服製作に必要な計測項目の推定式、ならびに、サイズ案を試みた。

2. 資料は既報の京都市内に在住する4才から21才に至る男女のうち、体重25.1~45kg(Aグループ)、45.1~77kg(Bグループ)の男女合計1368名である。

身長、総丈、背丈、右肩中心→W.L.後中心、右肩中心 W.L.→前中心、袖丈、着丈、ドレス丈、上着丈、スカート丈、スラックス丈、股上、股下、胴縦囲、股上前後長、ゆき、胸囲、胴囲、腰囲、頸付根囲、上腕最大囲、大腿最大囲、腕付根囲、手首囲、背肩幅、背幅、胸幅、肩幅、体重の29項目を用い、各項目間の相関、および身体の代表項目として2項目、または、3項目をとりあげ、その項目と他項目の回帰推定により、体重別に衣服寸法の基準をみいだすことを試みた。

3. 長径項目は身長と相関が強く、周径項目は体重、胸囲、腰囲と相関が強いが、一般にAグループよりBグループの方が相関の度合いは弱い。男子は体重、身長との相関が強く、衣服寸法を表現する項目として適当と考えられる。女子は男子のような傾向がみられず、したがって服種別に基準部位を設定する必要がある。